

第24回技術フォーラム開催

全国の拠点に同時配信も

大豊建設

大豊建設は10月31日、東京・中央区の本社会議室で第24回技術フォーラムを開催した。当日は、社員100人以上が参加するとともに、今回初めての取組みとして、テレビ会議システムを使い東北、名古屋、大阪、九州、網機材センターの全国5

拠点に同時配信した。

冒頭、大隅健一社長は写真Ⅱは「創意と工夫が技術開発の原点である。当社は、ニューマチックケーソンや泥土圧シールドといった他社に真似できない技術を開発し、現在でも幅広く採用されている。特に、泥土圧シールドに関しては7割以上のシェアを持っている。当社の抱える技術は営業的にもアドバンテージがあり、しっかりと経営を支えてもらっている



と想っている。今持っている技術を深化させ、技術をキチンと使いこなせる人材を育成することが我々の責務だと考える」と述べた。

今年、本社ビルリニューアル後初のフォーラム開催となり、生産性向上への取組み、新技術、難工事の施工事例、設計変更への対応に関する11件の発表のほか、技術研究所での情報発信も今回新たに追加した。また、立命館大学理工学部建山和由教授を招き「深化するi-construction」現場からの挑戦」と題した特別講演も行われた。

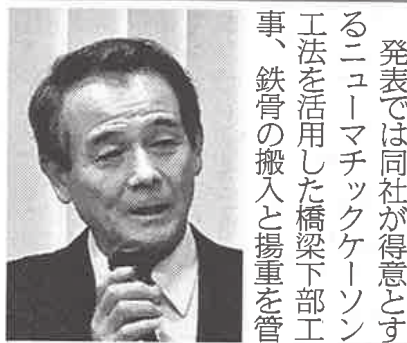
生産性向上など11件の技術発表

大豊建設フォーラム

大豊建設は10月31日、東京都中央区の本社で第24回「技術フォーラム」を開いた。役職員を含む約100人超が参加し、ニューマチックケーソン工法や生産性向上技術など11件を報告。今回からテレビ会議システムを取り入れ、東北や名古屋、大阪を含む五つの拠点に発表内容を配信した。

技術フォーラムに先立ち、大隅健一社長は「創意工夫が技術開発の原点であり、技術力を磨き続けることが会社の成長と発展につながる。発表で得た知識やノウハウを今後に生かせるよう、技術フォーラムが実りあるものにしてほしい」と呼び掛けた。写真Ⅲ

技術フォーラム委員長の今井和美常務執行役員は「自然災害への対応や首都直下型地震に対する備えが急務となる中、建設業の役割はますます重要になる。半面、担い手不足という課題も抱えている。生産性向上を目指し、自己研さんを期待したい」と述べた。



理する建方管理システムの導入成果などを報告。木造とRC造を併用した立面ハブリッド構造といった新技術も披露した。